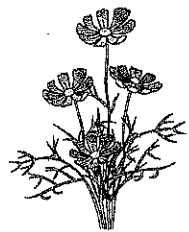


# 県退教協だより NO.91

長崎県退職教職員等連絡協議会

長崎市筑後町二一教育文化会館内

☎〇九五―八二二―五一九五



花言葉  
黄花：野生の美しさ

## 第40回記念総代会

2021年、40回の年度を迎えた。18年に会則を改め2年に一度の開催としたので、記念となる50回は20年後。そこで、事前に開催した代表者会で承認を得て、この40回を記念の総代会とした。コロナ禍であったが、県内感染者が減り、長崎市内の緊急事態宣言も解除されたので、6月24日、長崎地区労会館大会議室で対面で開催した。参加者は、通常各支部1名だが、できるだけ多くの会員に参加してもらいたいと考え、支部最低2名として、支部の人数にに応じて定数を決めた。長崎5、西彼



・五島・島南・北松2、大東・佐世保3、老岐1が参加した。来賓は限定して日退教会長と県教組委員長のみとした。

「記念」総代会にふさわしく、総会の前に、平野伸人さんによる記念講演を行った。その概要は2面に、講演全ての内容に、後日発行の記念誌に記載する。

日退教会長は、抗体検査とPCR検査をしての来崎であった。総会の始めに資料をもとにした中央情勢報告をしてもらったが、時間が短くて十分に聞くことができなかった。総会は長崎支部の堀田議長により進められた。事前に議案書を配布していたので、できるだけ短く提案した。

第1号議案の経過・決算・監査報告は、質疑もほとんどなく承認された。第2号議案では、次のような質疑が出され、回答した。①石木ダム支援は経過と具体的な進め方に違いがあるが(北松)「基本的には反対の姿勢。ただ組織だった支援活動は無理なので、情報提供により側面的に個人的活動の支援をしていく」、②記念誌について「マなど具体的な提案を早急にしてほしい(大東、島南)」「終了後役員会で協議し、広報委員会最終確認して各支部に原稿を依頼する」、③記念誌は電子化の時代なぜ紙なのか(佐世保)「会員全体の環境が揃っていないので」、④今後憲法をどうしていくのか(佐世保)「堅持する姿勢は変えない。当面、具体的な改憲の動きを注視していく」、⑤トリチウム海洋放出にかわる方法はないのか(佐世保)「知らない」、⑥退女教との合併の支部の実情とこれからの方向性(佐世保、老岐)「いろいろ

実態は各支部ある。急には難しい。情報交換などの交流を重ねて行く」、⑦ITC教育ではその立ち後れをどうするのか(佐世保)「立ち遅れの危惧はあるが、それより定員増や児童生徒の支援にその予算を使うべきである。現場からの署名等の要請があれば応えていく」、⑧沖繩辺野古問題は、その本質や全体像こそ書くべきではなかったか(長崎)「支援の基本は変わらない。現状を記載した」。その後、採決され、承認された。

第3号議案では、①決算書では組織費、予算書では組織強化となっているが、費目を変えたのか(佐世保)「今後「組織強化費」として、拡大も含めて使っていく」、②記念誌作成特別会計で特別会計と積立金から戻入するならばそれぞれに予算書を作らなければいけないのでは(佐世保)「決算の中で支出を明記する」、③支部の財政が苦しい。支援を(西彼)「求められてはいる西彼には組織強化費の予算から支援したい」。質疑・答弁の後採決、承認された。

第4号議案では、副選考委員長の奥土居さんから選考委員会の経過報告があり、その後承認手続がなされた。選考できない後承った幹事については、役員により会長委嘱となつては、役員会で選んでほしいとの付け加えがあ

## 記念講演

### 演題

#### 「高校生平和大使に至る道」

私は1946年生まれ、被爆2世。被爆者である母や祖母は原爆のことを話さなかった。同級生が白血病で突然亡くなる。高校2年の時までは2世という

った。  
スローガンは提案の通り、総代会宣言は、憲法「改正」を「憲法改悪」に修正して承認された。

終了後、日退教会長より、「緻密な議案書は素晴らしい。退女教との合併は重要な課題である。様々な障害を乗り越えて実現していかねばならない」といった感想と示唆をいただいた。県役員会では、次のように全体的な総括をした。協議体としての特性を活かし、議案書の内容や課題と足下（各支部の実態と諸活動）の乖離をなくす。そのために、①これまでの議案書スタイルは踏襲していくが、県が提起する認識や具体的取り組みに照らして、また支部独自の活動と併せて、「自分たちはこう進めてきた、そして、こう成果を得た（得られなかった）」という各支部の交流が総代会で出されていくと、今後につながる。支部の取り組みを持ち寄って論議・交流する総代会や地域代表者会にしていきたい。②定年退職後も多様な選抜肢を求められる現役への計画的加入促進の取り組みを強化する。

予定より30分超過したが、参加者の皆さんのご協力により、無事終わることができたことを感謝したい。

意識はなかった。大学卒業後会社員として働いたが、教師の夢が捨てきれず、千葉県での教師生活を経て長崎の教員となった。初任校は通知表問題で闘っていた福田小だった。次の赴任校が被爆2世運動へのターニングポイントとなる時津東小、被爆40周年の1985年だった。当時日教組は被爆2世教職員組織化を目指しており、「長崎にも」というのが方針だった。本来行く人が風邪のため、私が代わって会議に参加した。被爆者は高齢化しそのあとの被爆運動を引き継ぐのは被爆2世であるという流れがあり、被爆2世の組織化は必然だった。長崎に帰って県教組に相談、長崎県被爆2世教職員の会を作り、会長として活動を始め、今日に至っている。また全国被爆2世教職員会の会長にも推され初代会長になった。1985年は忘れることのできない年となった。

#### 在韓被爆者とのかわり

1987年に初めて韓国を訪れた時、被爆者の前で「被爆2世や被爆者を生んだ核兵器をなくすために一緒に運動をしましょう」と挨拶をしたところ、今のはおかしいと言われた。「好んで原爆にあつたわけではなく、日本が植民地にして強制的に連れられて行った。職をなくして広島や長崎に行つた原爆にあつて苦しんでいるのに、なぜ一緒に核兵器の廃絶をやるうというのか」というものだった。翌日、被爆者の家を訪れた。悲惨な状況だった。日本には援護法があるが韓国にはなく、日本政府も外国人被爆者には関心を持たなかった。挨拶に対し言われたこと

や在韓被爆者に対する状況に疑問を感じ、それ以来支援を続けている。広島と長崎での50件ほどの裁判では、勝つたり負けたりしたが、一番残念なのは勝つても当事者が亡くなるケースだ。生きていくうちに裁判でいい結果が出ないと何の意味もない。

#### 高校生平和大使へ至る道

1998年にインドとパキスタンが核実験。大使館に抗議したがうちがかない。それなら国連に直訴しよう、私はこの年の平和大集会で高校生の国連派遣を提起した。反対意見も多い中、結果的に高校生の派遣が決定し、高校生平和大使の道が開けた。初代平和大使2名の国連本部派遣はマスコミで大きく取り上げられた。第3代からは、軍縮会議のあるジュネーブの方が成果がある。アトバイスを受け、国連欧州本部派遣となった。2014年から2016年の派遣ではユース非核大使として軍縮会議でスピーチをしている。1998年から2020年まで、平和大使は300名、一人署名活動には5千名が参加している。

「がんばれ、がんばれ」だけでは高校生は育たない。私たち全共闘世代はこれでよかったかも知れないが、今の高校生には通じない。ゼネレーションギャップを埋めるにはそれなりに育てる側も苦労しなければならない。

（講演は、配られて解説資料に沿ってパワーポイントを使って、活動の様子が映像で示されながらおこなわれました。また、これまで出版された書籍も、参加者全員に無料で配布されました。講演の内容は紙面の関係でかなり圧縮しています）

# 支部活動

佐世保支部 宮原宏明

先ず、組織状況を説明します。佐世保市内を大きく6つの分団に分け、各分団を2、3の班に分けています。現在14班存在し、班長をおいています。班は5、16名の構成です。活動を4月の総会で決定した内容を、4月と奇数月に行う班長会で確認・決定し、実施しています。

主な年間行事

- 4月 定期総会及び懇親会
  - 5月 健康づくりウォーキング
  - 7月 班長会後に団結会
  - 10月 退女教との交流会
  - 11月 班長会後に団結会(忘年会)
  - 12月 班長会後に旗開き
- 他組織との合同行動として  
地区労・地区高間連行事

毎月9日 原水爆廃絶座り込み  
毎月19日 19日市民の会平和行進

具体的内容として

〈総会〉昨年度来のCOVID-19の影響により昨年と今年は開催できず、ハガキによる書面議決でした。

〈健康づくりウォーキング〉

昨年は時期を大幅にずらし、10月下旬に、俵ヶ浦トレイルの1コースを巡りました。佐世保駅前バスターミナルに集合し、路線バスに乗り出発しました。なお、佐世保市は75歳になると高齢者パスが発行されバス料金は無料になりました。今年5月26日に、新しくできた九十九島観光公園を中心に散

策しました。

〈団結会〉班長会後に会費500円で実施しています。前日に買い出しと調理をほぼ済ませます。昨年は忘年会のみ実施できず、今年には班長会すら実施できていません。

## ヨカ活動

### 朱印集めをして

長崎支部 池田哲夫

10年ほど前から御朱印集めのブームです。私はそれより20、30年前から旅先で寺社の事務所に「朱印うけたまわります」と表示していたら買っていました。

この間、朱印集めをして、興味がつなげるとか、書いていいねとか、知ったことなどを書いてみます。

○ 寺社のある所(特に一の宮)は、現在の中心地から離れている。今の繁華街・駅前埋め立て地か河川の下流部・中州など新しく造った土地の上にある。

○ 寺社のある所は、眺めの良い最優良地(崖崩れ・水害の心配のない所)にある。

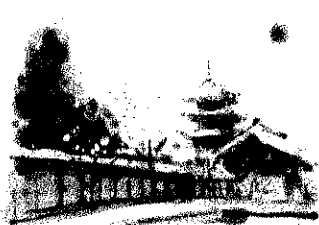
○ 最近の事件で、寺社が関係していること。富岡八幡宮(東京)での兄妹間の殺傷事件(この事件の2、3ヶ月前、朱印をもらいに行き、殺された女の宮司さんの顔を見ました。ちょうど朝礼をしていて、何か偉そうにしています)。

○ 柔道の古賀さん(姿三四郎のモデル)

が修行した、千栗(ちりく)八幡宮の階段をやつとの思いで上ったこと。古賀さんは毎日何回も上り下りして体を鍛えていた。

○ 熱海の伊豆山神社に行った時、小型バスで狭い道をくねくねと走った。海から階段で行けば600段。何しろ長崎の立山か小島よりひどい急斜面に家が建っていたのをよく覚えていた。そこが土石流で一ぺんに流された。現場に行っただけでよく分かります。

○ 神頼み、仏頼みは、無能力の塊です。安倍さん、菅さんは神頼み、仏頼みをしていいです。しかし、私たち庶民はしてはいけません。心や精神の安らぎを求めるところとしてあるようです。



## 記念誌を作ります

第40回の総代会を記念して「記念誌」を作ることが決定されました。日教組の組合員として行ってきた諸闘争、また被爆県の教職員として実践してきた平和教育、そして退教協会員として仲間と共に活動してきたことを誇りをもつて文や詩、イラストで構成し、私たちの足跡とします。全会員に届けます。原稿を募集します。支部に9月中に希望を出してください。支部からも原稿や作品の依頼をします。ご協力をよろしく。(詳しくは別紙案内を)

## 「私たちのSDGs」

県退女教会長 楠本礼子

国連が2015年から2030年までの世界的な行動として提案している「持続可能な開発目標」は、私たちの退女教活動にも当てはまります。

1968年に全国退女教が結成され、各県退女教が結成されていきましたが、長崎県も全国と同じ年の結成なので50年が過ぎました。その間、遅々たる歩みででしたが、男女平等の考え方や社会実態も改善されていき、運動の確かさを裏付けていきました。

まず、現職時代、教育に携わってきた者として、人生の先輩として子どもたちにどういう世の中を作るかについてです。「教え子を再び戦場に送るな」を運動の柱から外せないのは、会員たちの経験した戦争や戦後の苦しい生活、そのような中に再び今の子どもたちを立たせてはならないという思いがあるからです。もちろん自分たちも、貧しさやひもじさ、命や尊厳を脅かされて生きる時代を再び経験するのは絶対いやだという思いもあるからです。そのためには、学校や教育制度がどうあればいいのか、物がたくさんあれば豊かなのか……など、学校を職場としている人たちとも一緒に取組むことも大切です。

私たちが自分のこととして女性自身の問題を考え取り組んできたことは、これからの活動の際に意識して進めていく事柄です。「世界フォーラム」によれば、日本の男女格差は153カ国中120位で、

教育分野91位、政治分野144位とのことです。日本の指導者たちは、日本が世界のジェンダー後進国なのだという事を知っているのだからかと思えます。国連の17の提案も、いつまでも安心して暮らしていい地球環境をどう守り作るか、人類が持続的に発展するためにはどうすればいいか、です。これまでの退女教運動の中で、敗戦を乗り越えて立ち上がった先輩たちが、「戦争はいけない。平和であることが一番だ」と自らの被爆体験を語りながら、日本国憲法を誇りにして取り組んできた50年の運動が間違っていないかつたと確信します。

「考えることは地球規模で、取り組みは足下から」です。役員のなり手がない、加入者が大変少ないという実態とどう向き合い、組織拡大と強化を図るかも取り組む課題の一つです。「みんなで」「楽しく」「続けて」いく工夫をして、私たちなりの答えを探しながら行こうと思えます。

確実に年老いていくことを肯定しながら、生き生きと毎日を過ごせるようにするにはどういう世の中にしていけばいいのか、共に考えましょう。退教協とは共通の課題も少なくないので、高齢者運動の立場で共に取組んでいきましょう。「世の中を変えるにはまず政治から」といいます。21年は衆議院選、22年は参議院選、23年は地方選です。私たちの運動の方向により近い候補者をみんな推し、勝利に向けて頑張りたいと思います。

長崎県退女教は、このようなことを芯に据えて、連絡を取り合いながら10の地区が自分たちらしく、楽しく、みんな動いています。

## 編集後記

91号の締めとして3つ。①危険な暑さ、②コロナ感染第5波襲来で1日の感染者1万人越えの中、緊急事態宣言乱発、③①と②の中でのオリンピック開催の愚行。

退教協会員の多くはワクチン接種を済ませたと思いますが、県の人口からすると3割にも満たないと思います。だから、人々は心配でたまらず、外の炎天下で一人歩きしていてもマスク。夏休みのラジオ体操でもマスク。自分ではマスクをはずせない一種の催眠状態です。コロナは飛沫感染なのに接触感染のように手洗い・アルコール消毒を押し付けています。専門家はうがい・手洗いだと指摘しています。科学が日常生活にありませぬ。昔のエビデンス抜きでいいとこ取りの「丁寧な説明」と同じレベルです。92号は来年の3月に発行になります。その間必ず衆議院選挙があります。社会新報に「生存のための政権交代を」という大見出しがありました。まさにその通りだと思えます。余生を安心して送り、やがてあの世に安らかに旅立つことができよう、人としての尊厳を求めます。

8月9日、原水禁世界大会閉会総会に参加し、原爆落下中心地まで歩いて11時2分に黙祷をしました。記念式典を車載のテレビで見ながら「あなたはどこの国の総理ですか」と管さんに言っただけでした。(西村祐一)

※SDGとは(読み)エスディーシーズ。意味「持続可能な開発目標」